松本参与との意見交換会（東信地区）

日　時：平成 29 年 4 月 26 日（水）午後 1 時から午後 2 時 35 分
場　所：東信教育事務所
参加者：２５名
概　要

[主な意見]

【新美術館の理念、コンセプト関連】

○信濃美術館は県立美術館として、長野県で一番の美術館になってほしい。そのためには、学芸員の充実が必要。学芸員は採用されてすぐにできる仕事ではない。10 年、20 年の積み重ねが必要。非正規で身分が不安定な学芸員が多い状況では難しい。責任を持って仕事ができる体制をつくってほしい。

○新美術館は、地域文化のローカルな面と世界水準のグローバルな面を求めている。両面を理解できる広い視野をもった学芸員が必要である。

○陽の当たっていない、埋もれている作家を評価できる仕組みをつくってほしい。そこが学芸員の腕の見せ所である。

○美術館と教育との結びつきを考えてほしい。そのためには、学校と連携が取れる教育担当の専門スタッフが必要である。

○今、子どもたちが美術館に行く機会が少ない。子どもたちの感性をいかに育てていくかを考えてほしい。家族で気軽に行ける美術館にしてほしい。

○子どもが行きたくなるような、子どもの目線に立った美術館にしてほしい。

○新美術館は、県内美術館のレベルアップにつながる取組をしてほしい。

○新美術館に期待しているが距離的に遠い。新美術館の展覧会を他地域に巡回してほしい。

○現代作家が気持ちよく作品をつくれる環境を提供してほしい。

○県内には美術館がたくさんあるが、若手作家の発表の場がない。若手作家が地元に戻って活動できる支援をしてほしい。

○新美術館のライブラリーやアーカイブ機能に期待している。

【施設整備関連】

○トラックヤードから県民ギャラリーまでストレスなく作品の移動ができるようにしてほしい。搬入口は雨がしのげる雨よけがほしい。

○県展などの公募展の際、梱包の箱をバックヤードに保管できると便利である。

○県民ギャラリーの近くに作品を審査する部屋があると、審査目的で利用する県民ギャラリーを他団体が利用できるのでよい。

○県民ギャラリーには、工芸や彫刻を展示する展示台を用意してほしい。

○県内美術館にガラスケースを貸し出してほしい。

○新美術館には、東山魁夷館、本館の常設展示室、企画展示室、県民ギャラリーと４つの展示室ができる。それぞれが独立して機能し、動線がクロスしないつくりにしてほしい。

○ショップやカフェは、外から入りやすい場所がよい。美術館のアプローチになるようにしたほうがよい。

○陸屋根は亀裂が入りやすく、雨漏りなど施設の管理が難しい。長野県の気候を考えて設計してほしい。

【運営関連等】

○高齢者への入館料の割引を考えてほしい。東信地区から長野市に行くには交通費がかかる。地域差を補える料金設定にしてほしい。

○信濃美術館の作品を借りて自館で展覧会を企画したいが、保険料や輸送費を負担しなければならず予算的に厳しい。経費面の支援をお願いしたい。

○駅から美術館までシャトルバスを運行するなど、人の動線を考える必要がある。

○ぐるりん号（中心市街地循環バス）を信濃美術館まで回るようにしてほしい。

○学校から美術館に行くには、バスなどの交通手段を確保しないと難しい。

○有料ゾーンだけにしてしまうと誰もがアクセスするようにはならない。誰もが立ち寄れる、開かれた明るいイメージの美術館にしてほしい。美術に関心がない人にどれだけ美術館に足を運んでもらえるかを考えてほしい。

○ボランティアを募集して、県民が活躍できる場をつくってほしい。県民が美術館の運営を盛り上げる仕組みをつくってほしい。

（以上）